

第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選		
●日程	平成31年4月13日 (土) ~ 平成31年4月14日 (日)		
●会場	いちき串木野市総合体育館・郡山体育館		
●講師	福岡 敬徳 様 小澤 勤 様		
●スケジュール	平成31年4月13日 (土)		
	8:45 開講式 9:00 講師講話 9:30 実技開始 20:00 夕食懇親会 21:30 終了		
	平成31年4月14日 (日)		
	8:45 講師講話 9:30 実技開始 第4試合終了後 閉講式		
●担当試合	平成31年4月13日 (土) 9:30 ~		
	対戦カード	鹿児島女子 VS 大島	
	主審	主審 原田氏	副審 U1三木氏 U2太田
	講師／主任	なし	
	講評	CC原田氏より ・リバウンドに対するCからのアジャストが良かった ・TOが不安な点についてTOともクルーでも常に情報共有してコミュニケーションを取れたことは良かった。 ・クロック管理、アウトオブバウンズなど、誰が責任をもって誰が鳴らすかを明確にしなければならぬケースがあった ・1Qの終わりでクロック管理について、タイマーの位置を試合前にクルーで確認すべきだった。その場で対応できたのは良かった。 (映像をみて) ・シュート、リバウンドシュートに対するTとCの意識はもっと必要。ブレイクに備えがちだが、2回目3回目を逃すことがないように、確認を積めるようにする。 ・UFについて答えを出しても良いが、クルーで確認しても良いケースだった。コントロールがあり、必要のない接触プレイと判断しUFとした。(C3)U1	
	自己の感想	・Tが高くならないように、Cはアジャストし続けられるように意識して取り組んだ。 ・レフェリーディフェンスをすることで、イリーガルまたはイリーガル、マージナルなのかを判定しようと心掛け、プレイを捉えられた ・FTのCで逆側のボードに当たり、リングの接触を確認できないケースがあった。クルーに確認したところ、当たっていなかった。現場でどう判断するか、処置するか。 ・クルーがUFと判定したプレイ、自分の中ではクライテリアを確認できなかった。そのような時にクルーで集まり、再度確認すべきだった。	

第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選		
●日程	平成31年4月13日 (土) ~ 平成31年4月14日 (日)		
●会場	いちき串木野市総合体育館・郡山体育館		
●講師	福岡 敬徳 様 小澤 勤 様		
●スケジュール	平成31年4月13日 (土)		
	8:45 開講式 9:00 講師講話 9:30 実技開始 20:00 夕食懇親会 21:30 終了		
	平成31年4月14日 (日)		
	8:45 講師講話 9:30 実技開始 第4試合終了後 閉講式		
●担当試合	平成31年4月13日 (土) 14:00 ~		
	対戦カード	鹿児島純心 VS れいめい	
	主審	主審 太田	副審 U1田中氏 U2角田氏
	講師／主任	なし	
	講評	クルーでの反省より ・ゲームの展開が多く、また早くランディションに対応するケースが多かった。そのためボールの攻守が変わった間際、リバウンドの最中、またその直後など必ずプライマリーの意識を強くもって確認をしようとコミュニケーションを取ることができ、実際にプレイにも対応できた。 ・ローテーションについてチームのオフェンスに合わせ、サイド2を作っていくなかで臨機応変にできた。クルーがそれぞれの場所で得た情報をタイムアウトやクォーター間で常に情報交換ができた。 ・ポストプレイのコンタクトについて早目の段階で対応が必要だった。特にボールをレシープしようと自分のプライマリーから離れていく、または自分のプライマリーに入ってくるケースについて判定がぶれていた。	
	自己の感想	・ターンオーバーが非常に多く、ボールを失った際、ボールを得た際、またどちらも所持がない場面において審判の判定が求められるケースが際立った。TとCは必ず残って全てを確認し見届けてからnewリードないしnewセンターに入ろうとクルーで確認した。 ・センタープレイヤーに対してクルーがテンポセットをしてくれたので、自分の判定においても繋げることができた。が、その前に自分がテンポセットしなくてはならないケースもあったのでは。	

第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選		
●日程	平成31年4月13日 (土)	～	平成31年4月14日 (日)
●会場	いちき串木野市総合体育館・郡山体育館		
●講師	福岡 敬徳 様 小澤 勤 様		
●スケジュール	平成31年4月13日 (土)		
	8:45 開講式 9:00 講師講話 9:30 実技開始 20:00 夕食懇親会 21:30 終了		
	平成31年4月14日 (日)		
	8:45 講師講話 9:30 実技開始 第4試合終了後 閉講式		
●担当試合	平成31年4月13日 (土) 14:00 ～		
	対戦カード	鹿児島女子 VS れいめい	
	主審	主審 山中氏	副審 U1太田 U2前田氏
	講師／主任	小澤 勤 様	
	講評	・ゲーム全体として3人で協力しゲームにマッチした良い試合だった。その中で、グッドコールがあるのに、プレゼンやPOCについて再度確認してほしいケースがあった。 ・プレゼンについて。ボールコントロールが変わっていないケースでのNF、オフェンスファウルというプレゼンができていれば良かった。チームファウルが、もしボーナス状態だったらと考えたと常に正しいプレゼンをしたいケースであった。 ・テンポセッティングについて。1Qの始まり、CCとU1のコールが続いたとき、もう一人のクルーはどんな精神状態であるか。いかに冷静にプレーを判定し続けることができるかがキーとなってくる。トップリーグでもあるケースである。焦らない事。 ・プライマリーが重なるケース、シングルコールが多かった。ダブルコールでも良いケースがあること。また鳴らしてほしいケースは必ずあること。 ・終盤のファウルゲームぎみになった時、吹いたケースと、吹かなかったケースの違い。3人の中でセットは同じくすること。	
	自己の感想	・T、C、Lにおいてポジションを意識した。特にTに関しては、前ゲームクルーの講師より反省で高すぎないことと、低すぎないことを教えていただいた。高すぎず、オープンアングルでプレイを捉えるように取り組んだ。ゲーム中、とてもポジションが取りやすく、プレイも捉えやすかった。 ・プライマリーの意識をもっと高める必要があった。特に、相手プライマリーのケースや、2人で確認・判定し最終的にプライマリーに預けた方が良いケースなどオーバーエリアになってしまったケースが2回ほどあった。 ・ゲーム終盤、ファウルゲーム気味になり、クルーが取り上げたケースにおいて”ボールプレイであったか”等、クルーで確認すべきところがあった。 決勝という場に立たせていただき、感謝の気持ちと更なるステップアップに努めていくゲームとなった。	

第74回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会 鹿児島予選 鹿児島インターハイ・国体 指名強化審判研修会 参加報告書

日時:平成31年4月13日(土) ~ 平成31年4月14日(日)
場所:鹿児島県 いちき串木野市総合体育館

講師講話(4/14) 小澤 勤 様

- ・国体担当の小澤様より、国体における審判の現状、開催県の審判員について
開催県の審判員は上級以外に、B級約36名(例年実績)必須となるため、開催県のB級審判員の技術向上、協力・支援が大会を円滑に運営し、より良いゲームをつくりあげるには欠かせなくなる。インターハイと国体を地元で迎えられることは、審判人生においてあるかないかと言っても良いほど確率は低いものなので、是非この機会を大切に、そしてトライしてほしい。
- ・プレゲームカンファレンスについて
トップリーグで実際に使用したプレゲームカンファレンス資料を見せていただいた。
通常1.5時間から2時間をかけてクルーで行うとのこと。
トップリーグも、みなさんがすることも基本的には同じで、丁寧に起こりうることを、ゲームを円滑にするために必要なことの確認を行う。
○ゲームコントロール
・予防効果のあるコミュニケーション、警告
・リスペクト フォーザゲーム
・TOとのコミュニケーション
・アウトオブバウンズの協力
・テクニカルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウル
・強い、決断力のある、接しやすい
・タイムアウト:再開の位置にボールにおいて集まりましょう/積極的にコミュニケーションを取りましょう
・交代:通常の手続きと負傷したプレイヤーの場合
・EOQ:クロックの管理、2 VS 3 の確認
・チームファウルの把握「next bonus」「2more」
(コート上のパフォーマンスにおいても、ゲームコントロールを重視し、ゲームの結果に関わるようなケースなど、毅然と判定していくことで、実際にポストシーズンにはいる前に、全体としてその基準を示すことに尽力する。)
○メカニクスの確認
・リードはボールのある位置に対応してローテーションを中心としたクルーの動きをリードする。
主なローテーションのステップとして「クローズダウン、ローテーション、フィニッシュ」の3ステップがある。
・オンボール・カバレッジ
ボールがプライマリ内にある場合、そのオフィシャルはマッチアップを中心にフォーカス(オンボール・マッチアップ)をおく。
オンボールでのマッチアップにプレッシャーがない場合は、その分セカンダリーヘフォーカスを分配し、視野を広げていく。
・オフボール・カバレッジ
オフボールをカバーするオフィシャルはボールアクションに直接関係していないプレイヤー全員を視野に入れることができるポジションを確保。
ボールの位置でそれぞれのポジションにいるオフィシャルがオンボールであるのかオフボールであるのかが決められる。
(最後に)
今回、鹿児島県との審判交流ということでこのような機会をいただきました。インターハイ、国体を前に緊張感のある、また積極的な学びの空気間の中、貴重な時間を過ごすことができました。特に一番収穫があったのは位置取りです。3POを学んでからトレイルは高くないように心がけてきました。ダブルセンターとなっても良いと共通認識があったかと思います。しかし、常にそのポジションを取るのではなく、アジャストしていく中で下がることはあっても、ベースはボールラインであること。高すぎず、低すぎずと考えると難しいかもしれませんが、トレイルは全体を見渡せるオープンなアングルをボールラインで捉えることで良い位置・距離を得られるのだと、実際にゲームを通して実感しました。この感覚を継続し、技術となるようこれからも研鑽し続け、また大阪の審判員にも共有していきたいと思っています。
このような貴重な機会をいただき、現地においても高配いただきました鹿児島県バスケットボール協会の皆様、ご支援、ご協力賜りました大阪府バスケットボール協会の皆様に心より感謝申し上げます。